

第 27 回日ロ沿岸市長会議 共同コミュニケ

ロ日極東シベリア友好協会の招待により、ペトロパヴロフスク・カムチャツキー市で開催された第 27 回日ロ沿岸市長会議に参加するため、日ロ沿岸市長会の代表団が 2019 年 8 月 20 日から 25 日までロシアに滞在した。

会議には日本側から

新潟市長	中原 八一
舞鶴市長	多々見 良三
金沢市都市政策局長	松田 滋人
富山市政策監	本田 信次 が、

ロシア側から

ハバロフスク市副市長職務代理者 国際・対外経済担当	イワノワ T.N.
ブラゴヴェシチェンスク市長	カリタ V.S.
ナホトカ市長	グラトキフ B.I.
ペトロパヴロフスク・カムチャツキー市長	イワネンコ V.Y.

が参加した。

会議参加者は経済「日本海沿岸地域とロシア極東シベリア地域諸都市間の経済協力の促進」と観光「両地域諸都市におけるインバウンド・アウトバウンドの取組みと相互協力」の 2 つのテーマで、各分野の専門家の参加を得て、具体的な議論を行った。

双方は、2016 年 5 月に日本側が提示した 8 項目の協力プランが進捗し、ロシアにおける特区や自由港の制度、査証緩和措置が実効性を高めているなかで、日ロ両国関係が拡大してきている結果を評価した。

会議参加者は、エネルギー協力は日本とロシアにおける互恵的な主要プロジェクトの一つであり、日ロ両会員市の港湾機能の拡大において、重要な意味を持つことを確認した。

双方は、シベリアランドブリッジなど鉄道網・幹線道路網を利用した日ロ間の貨物輸送の拡大に期待を表明したほか、日ロ両地域を結ぶ航路及び航空路の重要性を強調した。

加えて、会議参加者は、地方企業が互いの市場に進出するためには、双方の市場の現状や相手国の制度などを正しく理解する必要があることを指摘した。これを受けて、双方の中小企業が日ロ間の貿易に取り組みやすくするため、企業や地域商社などからなる経済実務団の相互派遣を検討することで合意した。

会議参加者は、両政府間で査証緩和措置が進められていることを高く評価するとともに、観光客の往来をさらに増やすため、さらなる手続きの簡素化・迅速化を双方の政府に働きかけることとした。

また、旅客の増加に向けては、双方がインバウンド・アウトバウンド両方の振興に取り組むことも重要であるとの認識で一致し、観光関係者の相互視察や観光展示会・見本市への相互参加などを検討することで合意した。

双方は、両会員市に寄港するクルーズ船の誘致活動にかかる船社への働きかけにおいて、日ロ両地域間で連携し一体感のある取り組みをすることは意義あることと認め、その実現可能性を検討することで合意した。

双方は、真の相互理解に基づく友好的、平和的両国関係樹立のため、地域間の協力をさらに発展させることが重要であることを強調し、両国間の未解決の問題が解決され、平和条約が早期に締結されることへの期待を表明した。

会議参加者は2019年6月に日露首脳が、2020年から2021年に「日露地域・姉妹都市交流年」の実施で合意したことを歓迎した。

双方は、幅広く情報共有をはかりながら、人的交流、文化、学術、中小企業、農業などの各分野における協力関係を活発化し、一層の発展に努めることで合意した。

双方は、本会議が有益かつ必要であることを認め、第28回会議を2021年に日本で開催することに同意した。

本コミュニケは、それぞれ日本語とロシア語で2部署名され、等しい効力を持つ。

日ロ沿岸市長会代表幹事
新潟市長

中原 八一
中原 八一

ロ日極東シベリア友好協会会長
ハバロフスク市長


クラフチュク S.A.

舞鶴市長

多々見 良三
多々見 良三

ブラゴヴェシチェンスク市長

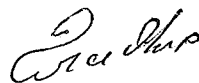
 カリタ V.S.

金沢市都市政策局長

ナホトカ市長

松田 滋人

松田 滋人



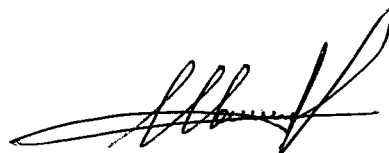
グラトキフ B.I.

富山市政策監

ペトロパヴロフスク・カムチャツキー市長

本田 信次

本田 信次



イワネンコ V.Y.

2019年8月24日